

## つきたい力

自分の考えを自分の言葉で伝えることのできる力

## 取組みの概要・ポイント

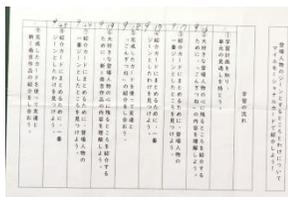
1. 単元でつきたい力を明確にした、単元を貫く言語活動を設定する。
2. 目的をはっきりさせた話し合い活動を行い、対話を通して理解を深める。

## 具体的な取組みの内容 自分の考えを自分の言葉で伝える力を育てるための授業づくり

### 1. 単元でつきたい力を明確にした、単元を貫く言語活動の設定

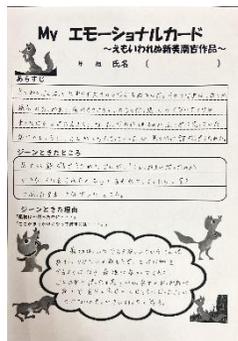
#### ①「つきたい力」を明確にした単元計画

- ・当該単元で子どもに身に付けさせたい資質・能力を学習指導要領に基づいて明確化し、その力を育てるために最適な言語活動を設定する。
- ・単元計画は、教室内に常時掲示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。



#### ②児童が主体的に取り組む必然性のある活動の設定

- ・単元のゴールを「目的のある活動」として設定することで、主体的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・多数の本を並行読書教材として提示することで、子どもが自分で本を選択し、主体性をもって読書活動に取り組むことができた。



#### ③ゴールの成果物や活動の姿をわかりやすく提示

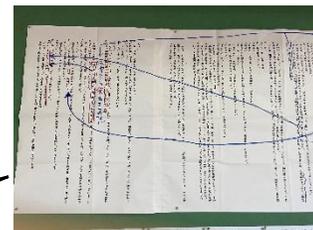
- ・単元のゴールとして完成する成果物は事前に作成し提示することで、子どもたち単元のゴールのイメージをもちやすくした。
- ・交流会がゴールとなる単元では、ゴールとなる交流会の様子を動画で示し、活動の見通しをもてるようにした。

単元の学習が始まるまでに成果物を授業者が実際に作ることは重要な教材研究にもなる。

### 2. 目的をはっきりさせた話し合い活動を行い、対話を通して理解を深める

#### ①全文シートの活用

- ・文章全体を一覧できることで、部分的な記述ではなく文章全体の構成や意図を捉えやすくなった。
- ・交流の際には全文シートを持参することで、単なる意見交換にとどまらず、文章の叙述に基づいた深い対話ができた。

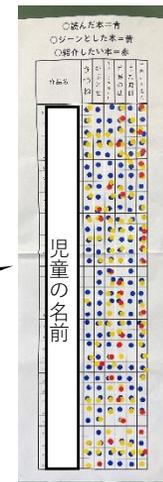


叙述同士を線で結ぶことを拡大印刷したものを使って指導した。

#### ②目的に応じた交流相手の設定

- ・並行読書のマトリックス表を活用したり、同じ物語を選んだ子ども同士でグループを編成したりすることで、目的に応じて話し相手を選べるようにした。
- ・これにより、児童は自分の学びに合った相手と対話し、より意味のある交流が可能になった。

同じ本を読んでいる人などを子どもたち同士で把握できるようマトリックス表を利用した。



#### ③教員によるモデル動画

- ・対話の仕方の見本を教員が動画で撮影し、交流前などに視聴させた。言葉による説明だけでなく、実際の姿を見せることで、活動の具体的なイメージを共有することができた。

## 取組みを通しての子どもの変容

- 単元計画やゴールの成果物を示すことで、児童が主体性をもって学習にとりくむ姿が見られた。
- 学習活動の中に並行読書を取り入れることで児童の読書量が増えた。（本の貸し出し冊数、昨年10月末5082冊→今年10月末9065冊）
- 学習アンケートの結果  
「話のつながりを意識し、大事なことを考えて、読んだり聞いたりしている。」（昨年度76.7%→今年度84.1%）

